会山行 No.2253

春合宿：北アルプス　槍ヶ岳，北穂高岳

◆日程　　2019 年 4 月 27 日（土）～5 月 2 日（木）
◆メンバー　L：岡村，須田，大塚，雫，佐藤，前田，柳，小山田，池本，日比野，河野，大山，今井，松田，山中

（春合宿総括）

総会で提案した年間目標が「合宿の充実」であり，その内容は「山行日数の長期化」と「参加人数の最大化」であった。それを具体化したものがこの春合宿であって，全体としては，槍ヶ岳に登った後，横尾から涸沢に登り返して穂高に向かうというものだが，槍だけ登って横尾から下山するもよし，槍は登らずに横尾から合流して穂高に登るのもよし，ということにした。

このようにフレキシブルな山行計画だと，山中でタイミングよく待ち合わせをすることができるか等，課題は多く，その計画は「ち密にして且大胆な計画」（運営に関する細則３条）となった。苦労した甲斐があって，計画は功を奏し，特段の支障なく実行に移せた。

結果，うち３名が全行程を踏破し，その日数たるや前夜発５泊６日という長期山行を実現した。これくらい長いと，「寝ても覚めても山」という気がして楽しい。おかげで山中にて改元し令和元年を迎えるという稀有な体験もした。また，延べ人数１５名が参加することとなり，日数及び参加人数のいずれを見ても，「超」大型合宿となった。

内容としても，槍ヶ岳では晴天に恵まれて春山を満喫し，涸沢に入ってからは雪が積もり停滞を余儀なくされて奥穂高岳は逃したものの，北穂高岳に登頂でき，充実したものとなった。

日比野さんに食糧チーフ，佐藤さんに装備チーフをお願いし，事実上，大塚さんが会計を担当し，それぞれの分野で力を発揮してもらった。また，食糧表を見てもらうとわかるが，食当を担当した人の創意工夫が満ち満ちている。そういう意味でみんなが持てる力を出し合って，楽しい安全登山を実現したのだと思っている。満足な仕上がりである。

（記：岡村）

4 月 27 日（土）　天候：曇り時々雪

（メンバー　L：岡村，須田，大塚，雫，佐藤，前田，柳，小山田，池本）

松本駅で前泊し 5:30 の上高地行バスに乗った、GW 初日でもバス空席は 1 割ほど。

上高地で更に登山客で賑わう中、早々に出発、ザックは重いが平地移動との事なので心配は無かった。徳澤園で先行する小山田、池本と合流、これで 9 人揃った、小雪舞う早朝からソフトクリームを食べている、大丈夫なのか。横尾まで来ると雪深くなり、柔らかい雪を踏みながら進んだ、ここから徐々に登山らしくなる、槍沢ロッヂまで上高地から 6 時間かかった、ここで水を汲み缶ビールを調達、そしてアイゼンを履いてババ平に向かう。雪が降るなか幕営地に到着しテント設営、一気に夕食の準備、乾杯、20 時ころ就寝。

（記：佐藤俊）

CT：上高地 6:50 - 明神分岐 8:10 - 徳澤園 9:15 - 横尾 10:30/10:50 - 一ノ俣 12：15
- 槍沢ロッヂ 13:45 - ババ平 14:25

4 月 28 日（日）　天候：晴れ

（メンバー　L：岡村，須田，大塚，雫，佐藤，前田，柳，小山田，池本）

昨夜は吹雪のような風のうねりが続いていた、しかし日の出から察するに今日は晴天だ、3:00 起床 5:00 出発、雪のコンデションが悪くならないうちに下山する計算だ。

大曲を過ぎると急登が続く、1 本の踏み跡を何人もの人が一列で進む、ずっと先まで見渡せるが、いつまで経ってもゴールも槍ヶ岳も見えない。殺生ヒュッテを右に見ながらひたすら登る。

途中、救助ヘリが遭難者の搬送をしていたが、我々はただひたすら登る事に集中するのみだった。槍ヶ岳山荘についたのは 10:00 頃、5 時間登り続けた。

槍ヶ岳山荘で休息、水分と糖分を補給しリセット、自販機でビールも売っている、そして全周絶景。ここから穂先に向かうのだ。

穂先は雪と岩と鉄梯子だ、アイゼンがよく効く、ピッケルを持ってきたが、ずっとハーネスに差したままだ、三点支持で慎重に登る、落石をしないように気を配る、下からは次々に登山者が取り付いてきていた、1 時間ほどで頂点に立った、青空と白い峰々が美しい。

（記：佐藤俊）

槍はやっぱり、特別な山だと思う。ましてや雪のある時期となると、なおさら。今回登ることができたのは、ひとえに先輩方、仲間のおかげだ。肩にある小屋までの登りも、なかなかの急傾斜でキツかったけれど、皆で登ると、なんとか行けるものだ。穂先に登る前は緊張していたが、いざ取り付くと、鎖は豊富だしホールドはいっぱいあるしで、楽しく登れる。最高の天気と、頂上にいるのが我々だけという状況にテンション上がりっぱなしだった。しかも太陽の周りに二重の虹も見え、景色の雄大さと相まって、これ以上はないすばらしさだった。神様っているんだなぁ、と納得してしまった。テン場までの下りのウンザリするツボ足もいい経験だった。これから先、どこかから槍の穂先を見た時には、上からのこの眺めを思い出せる。最高の眺めを。本当にありがとうございました。

（記：小山田）

CT：ババ平 5:00 - 殺生ヒュッテ前 8:50 - 槍ヶ岳山荘 10:00/10:30 - 槍ヶ岳山頂-11:30 - ババ平 16:00

4 月 29 日(月)　天候：晴れのち曇り、時々雪

<<ババ平から下山するパーティ>>

（メンバー　L：佐藤，雫，前田，柳，小山田，池本）

4:00 起床、6:00 前にババ平出発、横尾 8:10 到着、共同装備を全て渡す、下山途中に涸沢チームとすれ違った、上高地に下山して、新島々から電車で松本駅、盛りそばを食べてから帰宅。　(記：佐藤俊)

CT：ババ平 5:50 - 横尾 8:10/9:00 - 上高地 12:20

<<上高地から入山するパーティ及びババ平から横尾経由で涸沢へ上がるパーティ>>

（メンバー　L：岡村、河野、須田（健）、日比野、大山、大塚、今井、松田）

前夜に日比野さんと大山さん、私の 3 人で「さわやか信州号」に乗り、早朝の上高地に降り立った。辺りはまだ薄暗い。気温は 5 度程度で寒く、さっそく冬装備を身に着ける。

この日は横尾で本隊と合流し、涸沢にテントを張る。空は次第に明るくなり、青空が見える。私は冬に雪上訓練を受けていなかったので、今回は涸沢までの同行だ。大型ザックを背負って歩くことや、アイゼン・ピッケルの使用、雪上テント泊など、私にとっては初めてのことばかり。しかも明日から天気が崩れる予報。皆の足を引っ張るのではないかと合宿前から不安だった。しかし歩きながら見える穂高連峰は荘厳で美しく、感動的である。思い切って来てよかった。

横尾に着くと、すぐ長野県警の方々に声をかけられた。涸沢上部で雪崩が発生し、十数名が巻き込まれたとのこと、翌日から天気が崩れるので奥穂や北穂のアタックは控えるようにとのことだった。上高地の和やかさとは対照的な緊張感が漂っていた。そしてようやく本隊と合流。皆と会ってさらに元気が出てきた。空はすでに厚い雲で覆われていた。

横尾大橋を渡ると、そこからは雪道であった。急坂が現れたのでピッケルを出し、その少し先でアイゼンを付けた。雪は緩んでいたが、アイゼンをつけると踏ん張りがきき、安心して歩くことができた。

涸沢までは登り一辺倒である。風はほとんどなくアウターを着ていると汗をかいた。大きな爆発音がし、驚いて音の方を見ると、雪崩が起こっていた。生で雪崩を見たのは初めてで恐ろしく、ここは雪山なのだということを思い知らされた。(翌日の下山時は、屏風岩で雪崩が頻発していた。)

涸沢までの登りは長くキツかった。雪がパラパラと降ってきて、目の前はガスで真っ白だ。何度も心が折れそうになったが、自分を奮い立たせ、一歩一歩進んでいく。テント場に近づくと同時に県警ヘリが飛んできて、北穂から下山中の怪我人を収容していった。

ようやくテント場に着くと、先に到着していた河野さんが我々を温かく出迎えてくれた。

到着しても休む暇は無い。雪を平らにならし、テントを 2 つ張る。涸沢ヒュッテでお酒などを買い込み、早い時間から宴会を開始した。今井さんの作ったビーフンやマッシュポテトは美味しくて大好評だった。翌日は天気が悪そうだったが、アタックに備えて早めに就寝。マットを 2 枚用意したおかげで寒くはなかったが、夜中から降り始めた雪の音が気になって、ほぼ一

睡もできなかった。

朝 4 時に起床。雪は依然として降り続いている。ガスで視界も悪い。下山できるか不安であったが、やがて視界が開けると、それを待っていたかのように下山し始める人が出始めたので、慌ただしく皆に別れを告げ、私と今井さんは下山を開始した。

今回の合宿は天候には恵まれなかったが、私にとっては初めて経験することがたくさんあり、非常に勉強になった。岡村ＣＬを始め、初心者の私をフォローしてくださった皆様、ありがとうございました！

（記：松田）

CT：上高地バスターミナル 6:15 - 明神館 7:10 - 徳沢園 8:05/8:40 - 横尾 9:40/10：15 - 涸沢 13：55

平成 31 年 4 月 30 日（火）　天候：雪のち雨

<<涸沢から下山するパーティ>>

（メンバー　L:今井、松田）

一晩中降り続いた雪。松田さん食当のトマトリゾットの朝食をいただく。

雪でも視界が悪くなければ下山しようと考え、先行者がいれば下山可能だろうとアドバイスをいただいた。6 時頃から涸沢ヒュッテ泊の方々が続々と下山していくのを見て、今がチャンスと下山を決意。松田さんと涸沢ヒュッテに宿泊していた今井の友人と 3 人で、7 時頃下山を開始する。河野さんが雪に埋もれたアイゼンとピッケルを掘り出してくれ、見送ってくださり、仲間っていいなと感じた瞬間だった。

雪は次第にみぞれから雨になる。時折、岩壁から流れ落ちる滝のような雪崩に、北アルプスの厳しさを目の当たりにする。横尾が近づく頃、空も明るくなり雨に濡れたみずみずしい森に心が洗われ、「ここまで降りてきたらもう大丈夫」という安堵感に包まれた。

雨で重くなった体とザック、横尾からは各駅停車でザックを下ろし休息する。かっぱ橋から雲に覆われた穂高を仰ぎ、涸沢にいる本隊を想い帰路に着いた。新島々行きのバスの車窓からは、山桜と新緑が美しかった。

（記：今井）

<<涸沢に停滞するパーティ>>

（メンバー　L：岡村、河野、須田（健）、日比野、大山、大塚）

朝起きたら雪が積もっていた。そしてずっと降り続けている。バーナーにうまく点火できなかった。雪かきをして換気したら点いたので，酸欠になっていたのだろうか。この雪では仕方がないということで，はやばやと停滞を決めた。延々とババ抜きをした。買ったばかりの 6，7 人用のエスパースに 6 人で過ごしたが，まったく窮屈でなくて快適だった。

午前の遅い時間となると，雪は雨に変わり，雪かきの必要はなくなった。昼頃，雨足が弱まる隙を見てコッフェルをもっておでんを買い出しして宴会となり，その後は，ババ抜き，会話，昼寝のローテーションで，「平成最後の日」が暮れていった。

長い山行には停滞は付きもの。こんな経験もたまにはいいさ。思えば，いい休養日となった。

（記：岡村）

令和元年 5 月 1 日(水)　天候：雨

（メンバー　L：岡村、河野、須田（健）、日比野、大山、大塚，山中）

4 時起床。昨日は雨のため待機を余儀なくされたが、天気予報では回復の方向であった。時折フライを叩く雨音もするが、昨日よりはコンディションは良かった。朝食のクリームスープペンネを食べ、活動を開始する。周りのテントも動き始めるが、皆様子を伺っているようで、出発する隊はない。長野県警山岳救助隊の方々に状況を聞くことができた。28 日に奥穂で 30 人を巻き込んだ雪崩が発生している、現在でも至るところで雪崩の危険がある、ガスがかかっているので道迷いにも注意が必要、との内容であった。検討の結果、周りの登山者の動向と天候を見ながら、9 時までに①奥穂アタック、②北穂アタック、③撤退を判断することにした。

相変わらずの雨で時折強くなるが、北穂の頂上付近までは見えるようになっていた。数パーティが登り始めている中、岡村 CL、須田さんの判断で北穂アタックが決まった。早々に準備をし、8：25 出発する。まずは斜面中央付近の岩場を目指す。涸沢小屋を越え高度を上げてゆくとすぐに雪崩デブリに出くわす。というか、見上げれば南陵からここまで、ずっと雪崩デブリが続いている。前日からの暖かさとこの雨で雪はズブズブで歩きにくい。トレースを外すとすぐに足場が悪くなるので、一歩ずつ確実に進むしかない。途中、デブリを東へトラバースし、岩場の西側近くから登る。岩場の横に差し掛かり、この上で休憩と思ったその時、踏み込んだ右足が完全に踏み抜いてしまった。横倒しになりそのまま滑落、急いでピッケルを突き刺すが、横倒しで力が入らず、雪も柔らかく止まらない。と、足側を後続の大塚さんが押さえてくれ、どうにか停止した。コースに戻り 9：20 頃、岩場の上に到着し休憩をとる。

夏道ではここから西の南稜取付へ渡り、南稜から南峰を経由して北峰、北穂小屋のルートが一般的なようだ。今回は北峰へ直登するため、斜度がさらにきつくなる。未だ頂上が確認できないまま、ひたすら斜面を登って行く。安心して休憩できる場所はなく、1 時間ほど歩いただろうか、「稜線見えたよ！」と先頭の須田さんの声。ガスの中、かすかに稜線を確認できた。稜線を目指し一登りすると、岩稜帯が現れて 11：25 北峰に到着した。少し下り、北穂高小屋で休憩をとる。

小屋では装備を外し、濡れたウェアを脱げば室内で休憩することができた。ラーメン、コーヒー、ホットミルクなどで体を温める。暫くすると河野さんから入電、稜線に辿り着いたとの内容であった。そのまま小屋で合流することとした。北穂高小屋はこぢんまりとした小屋で、何かぬくもりを感じる素敵な小屋であった。事実、常連と思われるグループが登山談議に花を咲かせていた。晴天であれば大キレット、槍を見ることができる日本一標高の高い小屋、再び訪れることを誓い、13：15 小屋を後にする。

北穂高岳北峰にて全員で記念撮影し、涸沢へ下山を開始する。岩稜帯は直ぐに下ることができた。そこからズブズブの残雪を下るが、最初は急斜のため思うようにスピードが出ない。後傾になると踏ん張りがきかず、尻餅をついたり、斜面に足をとられ倒れそうになる。それが余計に体力を消耗する。日比野さんからのアドバイスにより、ポジションを確認し、徐々に下りにも慣れてきた。中間地点の岩場に着いたのは 14：30、そして 15:20 頃ようやくテントに戻る

ことができた。装備を解除してテントに潜り込む。濡れた体を温めるため暖をとると、テントを大きく揺らすほどの風が吹いてきた。この風を濡れた体で受けていたら、一気に体温を奪われていたことだろう。全員が無事帰還できたことに感謝した。

（記：大山）

CT : 涸沢 8:25 - 2,650m 付近 9:28/9 : 40 - 北穂高岳北峰 11:26 - 北穂高小屋 11 : 38/13 : 15 - 北穂高岳北峰 13:25 - 涸沢 15:20

5 月 2 日（木）　天候：晴れ

（メンバー　L：岡村、須田、大塚、河野、日比野、大山，山中）

今朝も雲が多いが視界は良好。予報では今日から天気は回復し連休後半は晴れるらしい。アイゼンを装着して下山開始。昨日の雨でウエアが濡れてしまったので脱いでいく。この時間はまだ雪がしまっていて歩きやすい。本谷橋まではすぐに着いてしまった。だんだん青空が見えてきた。ここから先はすれ違う人が増えてきた。これから入山の人は天気が良くていいなぁ。横尾の橋を渡る前にアイゼンを外す。徳沢、明神と歩くと林道わきの雪が 3 日前よりだいぶ減っていた。毎回のことだが、横尾から上高地までの林道歩きは足の裏や指先が痛くなる。明神からは明神岳がきれいに見えていた。かっこいい山なので一度登ってみたい。上高地でお風呂に入りさっぱりする。上高地からは吊り尾根がはっきり見えていて、河童橋付近は観光客でごった返していた。

（追記）松本でお蕎麦を食べて帰ろうと思ったら、昔からよく行っていた「古ばやし」が無くなっていた。新しいお蕎麦屋さんを開拓しなくては。

（記：日比野）

CT : 涸沢出発 6:20 - 本谷橋 7:04/7:30 - 横尾 8:30/8:40 - 徳沢-9:38/9:53 - 明神 10:40/10:50 - 上高地着 11:30

【全行程踏破したメンバーの感想】

昨年末の冬合宿に続いての合宿参加、今回の舞台は自分にとっては初めての北アルプス。冬装備で対応できるが、春の雪山は雨も降る点が厄介だという。期間も自己最長の 5 泊 6 日で、松本駅での前泊もある。どの程度食料を持っていったらよいか分からず、非常食も合わせて多めにした。加えて初日の晩は 9 人分の食当だ。前週の丹沢縦走の直後に風邪を引き、体調を見ながらの準備となったため、メニューは新たに考えずこれまで試したものの改良版とした。出発日の 4/26 は丁度よく年休だ、午前中一杯眠り倒し，午後にパッキングを終え出発。

体を冷やさないようにすることで、行動中に徐々に回復し、4/28 にはほぼ回復した状態で槍ヶ岳アタックに臨めた。この日は天気も良く、最高の一日となった。調子が戻ったところで、前半組と中盤・後半組が入れ替わり、涸沢に移動。ここで予報通り雨の洗礼を受けた。奥穂アタック予定日の 4/30、中盤組は悪天候のなか下山したが、アタック組は停滞。「ババ抜き」と「おでん」でのんびり過ごし、ここまでの疲れに丁度よい休養日となった。翌 5/1 の天候は回復傾向だが午後までは雨が見込まれるため、奥穂は断念し北穂を目指すことになった。雨でシ

ャーベット状になった重い雪を踏み、雪崩に怯えながら山頂へ急いだ。北穂高小屋でのコーヒーとストーブで濡れて冷え切った体も人心地。しかし下山中も雨だったため、皆濡れ鼠となり、合宿最後の晩はこれまでにない冷たい夜となった。翌日は力強い朝日に向かって下山。上高地からは、今回踏むことが出来なかった奥穂の山頂がくっきり。お風呂につかりながら「次回こそ」と思いを新たにするとともに、無事の帰還に安堵した。

1 週間で曇、晴、雪、雨すべてを味わえ、これぞ春山という変化に富んだ合宿となった。幸い，期間中体調を崩さずに済んだが，出発前の不調には冷や冷やした。長丁場の体調管理は最も重要だ。他にも課題が見つかった。行動食の見積りが多すぎ、半分が残った。荷物重量とスペースの無駄である。また、雨の中でも装備を濡らさない工夫が必要だ。衣類の濡れは体調管理に直結する。何れも、やってみて初めて分かったこと。皆の工夫を参考に改良を考えるのもまた楽しみだ。また、「次はこんなルートを行ってみたい」と、少しだけイメージを持つことが出来た。全てが今後に繋がる充実した旅だった。

(記：大塚)

春合宿は久しぶりに 5 泊 6 日の長期山行となった。加えてトレランで肋骨を痛めており、不安だらけのスタートとなった。

ＧＷの時期は天気が荒れ易い。天気が良いと半袖でも暑いくらいだが、荒れると冬山に逆戻りする。危惧していた通り、入山初日は吹雪になり、殺生ヒュッテ付近で低体温症で亡くなったと見られる登山者が倒れていて、我々が槍ヶ岳に向かうときにちょうど警察のヘリが救助作業をしていた。槍ヶ岳登頂日は晴天で、9 人全員で登頂することができた。360 度の展望で素晴らしい景色だったが、結局天気が良かったのはこの日だけだった。

一転、涸沢に入ってからは天気が下り坂になり、夜は雪が降り続けて 20 ㎝の積雪となった。

その後雨が降り出したためその日は一日停滞となった。こんなこともあろうかとトランプを持ってきていたので男 6 人でババ抜きをして盛り上がった。

翌日も降雨だったが少し小雨になってきたので北穂に向かった。雪崩のリスクがあったので奥穂よりは北穂の方がいくらか安全だと判断しての行動だったが、案の定、奥穂で雪崩が発生し怪我をした人も出たようだ。北穂に登る途中でも雪崩があったがルート取りが正しくできたので上手くかわすことが出来た。

それでも雨は降り続け、山頂についたときは全身ずぶ濡れで身体が冷え切っていた。北穂小屋に転がり込んで味噌ラーメンを食べるとやっと人心地ついた。北穂小屋は一番標高の高い山小屋で、天気の良いときに泊まってみたいものだ。

（記：須田）

【食糧】

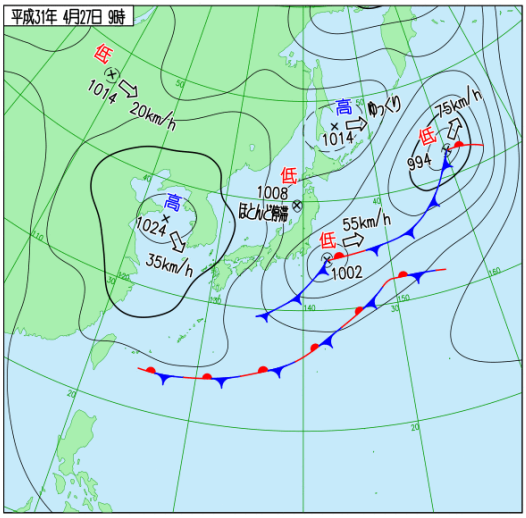
今回の合宿はババ平と涸沢に定着で、後半メンバーの一部が入れ替わるためその時に補給も出来るということで、軽量化や日持ちのする食材などの制約をせずに自由に考えてもらった。8 名がバラバラに考えたが、メニューがほぼ重なることもなくバラエティーに富んだメニューになった。食料表には、メニュー、食材、主食の量、人数を記入したので、食料計画の参考になればと思う。

(記：日比野)

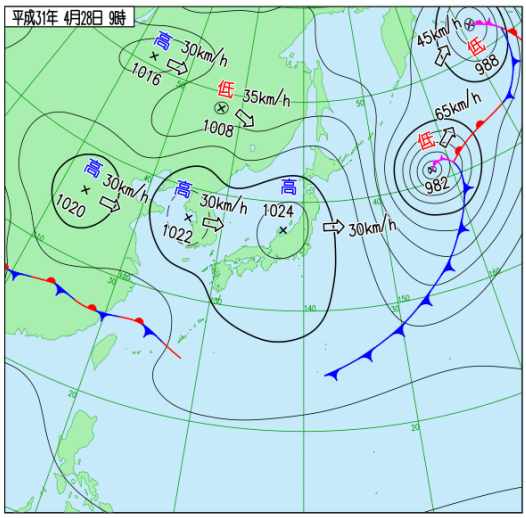
2019 年　春合宿　食料表

日程		テン場	人数	担当	メニュー	食材
4 月 27 日	夜	ババ平	9 (男 6, 女 3)	大塚	チリコンカン	α米(100g)×6 袋 コンビーフ、玉ネギ、ニンジン、ミックスビーンズドライパック、トマト(紙パック)、ケイジャンスパイス、オリーブオイル
4 月 28 日	朝		9 (男 6, 女 3)	池本	うどん	うどん 6 玉 卵 2 個、油揚げ、ネギ、とろろ昆布
	夜		9 (男 6, 女 3)	前田	味噌煮込みうどん	きしめん 6 玉　、　α米(200g)×1 袋（雑炊用） 八丁味噌、野菜
4 月 29 日	朝		9 (男 6, 女 3)	小山田	かき卵ラーメン	棒ラーメン 4 袋（8 束） 卵 6 個、乾燥野菜
	夜	涸沢	8 (男 6, 女 2)	今井	焼きビーフンマッシュポテト	ビーフン 1 袋/1 人前×8 袋 乾燥油揚げ、玉ネギ、乾燥人参、乾燥小エビ、乾燥小松菜
4 月 30 日	朝		8 (男 6, 女 2)	松田	トマトリゾット	α米(100g)×4 袋 トマトリゾットの素、乾燥ほうれん草、ベーコン、粉チーズ レーズンとクルミのパン 7 枚
	夜		6 (男 6)	大山	スープカレー	α米(100g)×4.5 袋 サラダチキン、ウインナー、玉ネギ、ニンジン、オクラ、しめじ、トマトスープの素(フリーズドライ)、コンソメ、カレー粉、ローレル
5 月 1 日	朝		6 (男 6)	大山	スープパスタ	ペンネ 450 g クリームシチュー(フリーズドライ)
	夜		6 (男 6)	日比野	角煮キムチ丼 海藻サラダ、みそ汁	α米(100g)×5 袋 角煮、キムチ、長ネギ
5 月 2 日	朝		6 (男 6)	日比野	ラーメン	ラーメン 5 袋 のり、チャーシュー、かまぼこ、わかめ

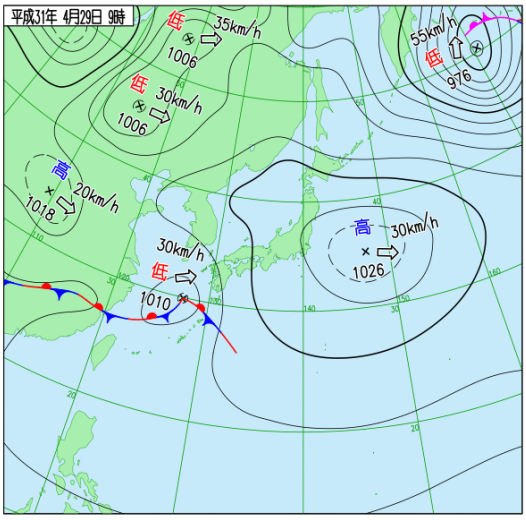
【気象】



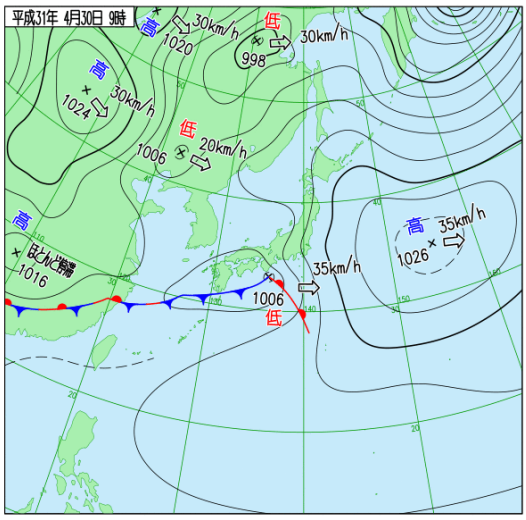
4 月 27 日　天候：曇り時々雪



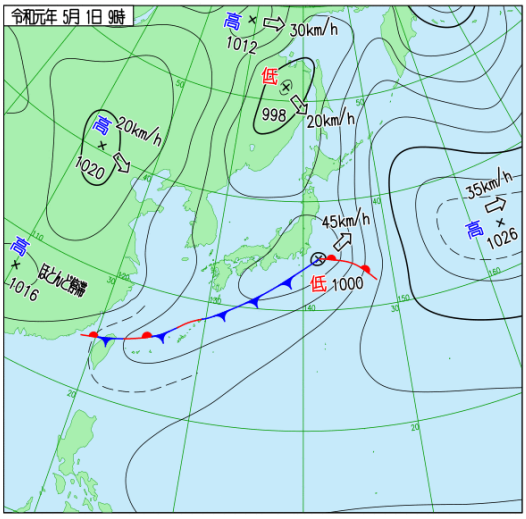
4 月 28 日　天候：晴れ



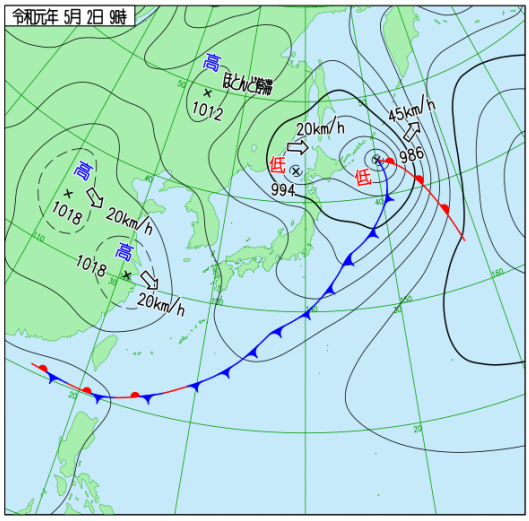
4 月 29 日　天候：晴れのち曇り、時々雪



4 月 30 日　天候：雪のち雨



5 月 1 日　天候：雨



5 月 2 日　天候：晴れ　　(記：岡村)